



プラチナ構想ネットワーク



# 第3回 プラチナ大賞 報告書



2016年2月  
プラチナ大賞運営委員会

# プラチナ大賞とは

## 「プラチナ大賞」の目的

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」は、成熟社会における成長の一つのモデルであり、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造によってもたらされる、豊かで快適でプラチナのように威厳を持って光り輝く社会です。

「プラチナ大賞」は、この「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的として2013年に第1回が開催され、今回で第3回目を迎えました。

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらをプラチナ社会のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。

## 「プラチナ社会」とは

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応など、さまざまな課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらを我が国が「課題先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- ・ **エコロジー**で（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）
- ・ **資源の心配がなく**（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）
- ・ **老若男女が全員参加**し（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）
- ・ **心もモノも豊か**で（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）
- ・ **雇用がある社会**（イノベーションによる新産業の創出）

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの個性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立的かつチャレンジングな取り組みが重要となります。

### 第3回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日時 2015年10月23日（金）13:15～17:30

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

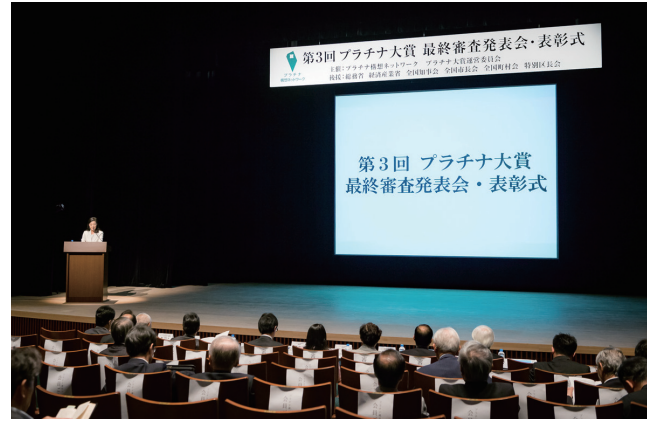
主催 プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）

プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）

後援 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

# 第3回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 フォトレポート

会場 イイノホール&カンファレンスセンター



## 開会挨拶



小宮山 宏 会長

## 運営委員長挨拶



増田 寛也 運営委員長

## 審査委員長挨拶



吉川 弘之 審査委員長

## 来賓挨拶



総務大臣  
高市 早苗氏



経済産業大臣政務官  
星野 剛士氏



総務大臣政務官  
輿水 恵一氏



民主党 衆議院議員  
前原 誠司氏

## 最終審査発表会 (発表順)



二セコ町  
片山 健也 町長



荒川区  
西川 太一郎 区長



珠洲市  
泉谷 満寿裕 市長(写真左)  
金沢大学 特任教授 中村 浩二 氏(写真右)



株式会社イトーキ  
ソリューション開発統括部  
R&D戦略企画部 部長  
八木 佳子 氏



川崎市 福田 紀彦 市長(写真左)  
横浜市 柏崎 誠 副市長(写真右)



積水ハウス株式会社  
環境推進部 部長  
佐々木 正顕 氏



豊岡市  
中貝 宗治 市長



香川県  
環境森林部 環境管理課  
水環境・里海グループ 課長補佐  
大倉 恵美 氏



高知市  
吉岡 章 副市長



熊本県  
蒲島 郁夫 知事

### 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告



第1回 特別賞  
第2回 審査委員特別賞  
香川県 浜田 恵造 知事  
(ビデオ出演)



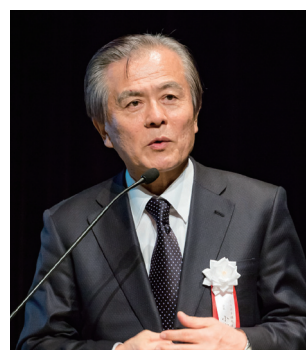
第1回 大賞・総務大臣賞  
海士町 山内 道雄 町長



第2回 大賞・総務大臣賞  
ヤマト運輸株式会社 岩手主管支店  
営業企画課 課長 松本 まゆみ 氏



第2回 大賞・経済産業大臣賞  
北九州市長 北橋 健治 氏



小宮山 宏 会長

### 表彰式



大賞・総務大臣賞  
珠洲市



大賞・経済産業大臣賞  
積水ハウス株式会社



## プラチナシティ認定



## 講評



吉川 弘之 審査委員長

## 閉会挨拶



渡 文明 幹事長



プラチナ  
構想ネットワーク

# 第3回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

主催：プラチナ構想ネットワーク プラチナ大賞運営委員会

後援：総務省 経済産業省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 特別区長会



プラチナ  
構想ネットワーク

# 第3回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式



---

## はじめに

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの取り組みを賞というかたちで称え、それらを「プラチナ社会」のモデルとして紹介することにより、更なる広がりにつなげることを目的に、2013年に第1回を開催しました。

「第1回プラチナ大賞」では、当会会員自治体から応募を募り、島根県海士町の『魅力ある学校づくり×持続可能な島づくり～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～』が大賞・総務大臣賞を受賞しました。

翌年の「第2回プラチナ大賞」では、会員自治体のみならず、会員の法人・特別会員からも応募を募り、結果、ヤマトホールディングス株式会社の『地域に密着したヤマト流CSV“まごころ宅急便”』が大賞・総務大臣賞を、福岡県北九州市の『都市間連携を通じたアジアのグリーンシティ創造』が大賞・経済産業大臣賞を受賞しました。

この2回のプラチナ大賞では、上記3つの取り組みを含む計19の取り組みに対し大賞、優秀賞、審査委員特別賞、プラチナ・イノベーション賞および総務大臣賞、経済産業大臣賞を授与しております。

今回の「第3回プラチナ大賞」では、会員自治体および会員法人から57件の応募が寄せられ、第一次審査において選出された10の取り組みについて、2015年10月23日に開催された「第3回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式」において最終プレゼンテーションを行っていただきました。その後実施された厳正なる最終審査の結果、石川県珠洲市の『能登半島最先端の過疎地域イノベーション～真の大学連携が過疎地を変える！～』が大賞・総務大臣賞を、積水ハウス株式会社の『「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを』が大賞・経済産業大臣賞を受賞され、他8つの取り組みが優秀賞、審査委員特別賞を受賞されました。

ご後援をいただいております総務省・経済産業省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・特別区長会、その他多くの当会関係団体、ご関係者、当会会員団体の皆様にはご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

また、ご応募いただきました各団体の皆様方には、日頃の熱意とご努力に敬意を表するとともに、あらためて厚く御礼申し上げます。

「第3回プラチナ大賞」の開催内容を「最終審査発表会・表彰式」の内容を中心に報告書にまとめました。本書が皆様にとって「プラチナ社会」実現への更なるご理解の深化、あるいは今後の当会活動へのご参画や次回以降の「プラチナ大賞」へのご応募の契機等となれば幸甚です。

今後とも、当会の活動に対する、ますますのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

## 目次

はじめに .....	1
開会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 .....	3
運営委員長・審査委員長挨拶	
プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也 .....	3
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之 .....	4
来賓挨拶	
総務大臣 高市 早苗 氏 .....	5
経済産業大臣政務官 星野 剛士 氏 .....	6
総務大臣政務官 輿水 恵一 氏 .....	6
民主党衆議院議員 前原 誠司 氏 .....	7
第3回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要	
実施体制 .....	8
プログラム概要 .....	9
最終審査発表会選出団体 .....	10
受賞団体 .....	11
プラチナシティ認定制度 .....	13
副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について .....	14
最終審査発表会選出団体 取り組みの概要	
珠洲市…16 / 積水ハウス株式会社…17 / ニセコ町…18 / 豊岡市…19 / 熊本県…20 / 荒川区…21 / 株式会社イトーキ…22 / 川崎市・横浜市…23 / 香川県…24 / 高知市…25	
「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告	
[第1回 特別賞 / 第2回 審査委員特別賞]	
香川県知事 浜田 恵造 氏 .....	26
[第1回 大賞・総務大臣賞]	
海士町長 山内 道雄 氏 .....	27
[第2回 大賞・総務大臣賞]	
ヤマト運輸株式会社 岩手主管支店 営業企画課 課長 松本 まゆみ 氏 .....	28
[第2回 大賞・経済産業大臣賞]	
北九州市長 北橋 健治 氏 .....	29
[コメント]	
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 .....	30
審査委員長 講評	
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之 .....	31
閉会挨拶	
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 渡 文明 .....	32
【資料編】	
運営委員会組織と事務局運営体制 .....	34
第3回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数 .....	34
応募団体の全体概要 .....	35
主なメディアの掲載一覧 .....	36



## 開会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
会長

小宮山 宏



時代は急速に変わりつつあり、人類史の大きな節目を迎えています。

私たち先進国では、物量的な欲求が概ね満たされつつあるいま、その先にあるハイクオリティで生きがいにあふれる「プラチナ社会」を目指して前に進もうとする、これがプラチナ構想ネットワークです。

プラチナ社会は、もしかすると、ずっと追い

続けるべきビジョン、夢なのかもしれません。

いま、すでに多くの地域で、このビジョンの実現に向けたさまざまな取り組みが始められています。そのような試みをみんなで評価し、共有し、そして前に進もうというのがこのプラチナ大賞です。

過去のプラチナ大賞をきっかけとして、たくさんさんの“触発”が起きました。今回の第3回目においても様々な“触発”が生まれることを確信しております。

審査委員の皆様、大変なご苦勞をおかけしますが、厳正なる審査をお願いいたします。会場全体で盛り上げていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

ありがとうございました。

## 運営委員長挨拶

プラチナ大賞  
運営委員長

増田 寛也



このプラチナ大賞は、今回で第3回目を迎えました。

第1回目は、全国の地方公共団体から応募をいただき、海士町の取り組みが栄えある大賞に選ばれ、昨年の第2回目では、企業の皆様方からも応募をいただき、ヤマトホールディングスさんの素晴らしい取り組みが大賞を受賞されました。

大賞を受賞された取り組みに限らず、優秀賞、審査委員特別賞といずれも素晴らしい取り組みばかりであり、これらを表彰し発信して、取り組みのエッセンスを各地域に展開していきたい、これがプラチナ大賞の目的でございます。

先ほど小宮山会長のお話にありましたように、プラチナの理念を全国に広げていくためには毎年毎年、良い取り組みを選ぶ、そしてそのことを継続していくことが大変重要ですので、そのような思いをもって審査に臨みたいと思っております。

会場においでの皆様方、どうぞ積極的にご参加をいただき、今後もこの賞を盛り立てていただければと思います。どうもありがとうございました。

## 審査委員長挨拶

プラチナ大賞  
審査委員長

吉川 弘之



このプラチナ大賞も第3回目を迎え、プラチナ構想についても、我が国でかなり広く理解されるようになりました。

少子高齢化、環境問題などの諸課題をプラスに転化して解決していくためには、新しい着想が必要です。

この新しい着想というのは、物理的原理を発見して、それを機関に利用するといういわゆる「イノベーション」と比べて、関与する人々の多様性や条件の多様性、そういったものが相

まって極めて難しいものです。

このプラチナ大賞の審査を続けておりますと、そのことがよくわかります。

また、その着想を政策として実施するにあたっては、その多様性ゆえに立案する者が現場と対話を重ねることが必要です。

いわば生活現場におけるイノベーション、社会的なイノベーションが必要なわけですが、これを我が国は世界に先駆けて実行している、そう実感しています。

今回は57件の応募の中で、10件が厳選されております。いずれも素晴らしい業績であり、そして、そのいずれもが多様な内容を含んでいることから、順位付けをすることは大変難しい。

厳粛に、真剣に審査をいたします。会場の皆様も、ぜひ真剣に聞いていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

## 来賓挨拶

総務大臣

高市 早苗 氏



第3回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式にお招きいただき、誠にありがとうございます。

小宮山会長、増田運営委員長、吉川審査委員長を始め、プラチナ構想ネットワーク会員の皆様方のこれまでのご活動に、心より敬意を表します。

総務省では、ICTを利活用してすべての世代がイノベーションの恩恵を受け、生き生きと活躍できる超高齢化社会を「スマートプラチナ社会」と位置付け、昨年、小宮山会長を座長とする有識者会議において、その実現方策を取りまとめていただきました。

現在は、この取りまとめに沿って、ICTを活

用した健康づくりや、テレワークの導入による新たなワークスタイルの実現など、「スマートプラチナ社会」の実現に向けた取組を一生懸命進めております。

どうか、皆様方のご協力をお願いいたします。

このプラチナ大賞は、新産業の創出や新しいアイデアで地域課題の解決を目指していく、そのような取組を表彰するもので、私もその趣旨に大いに共感しております。

本日の最終審査に残られた10件の取組はいずれも、ICTを有効に活用した素晴らしいものと伺っており、吉川審査委員長を始め、審査委員の先生方も選考にあたっては大いに悩まれたことと思います。

そして、栄えある大賞に選ばれた取組に対して、総務大臣賞を授与させていただけることは、大変光栄です。

この後の結果発表を楽しみにしながら、皆様と共にプラチナ構想ネットワークの活動を盛り上げてまいりたいと思っております。

ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

経済産業大臣政務官

## 星野 剛士 氏



本日は、第3回プラチナ大賞最終審査会・表彰式にお招きいただき、感謝申し上げます。御尽力いただいた、小宮山会長や増田運営委員長、吉川審査委員長を始めとする関係者の皆様方に、深く敬意を表します。

この「プラチナ大賞」が掲げる、イノベーションによる新産業創出や、アイデアあふれる方策によって、地域産業の競争力の低下などの地域の課題を解決し、豊かで快適な「プラチナ社会」の実現を目指すという取組は、政府の重要課題である「地方創生」を進める上で大変有意義なものであります。

地方創生にあたっては、地域が自らの実情を踏まえ、官民一体となった取組を進めることが

極めて重要です。経済産業省としても内閣官房まち・ひと・しごと創生本部と連携し、人口動態や産業構造などの地域経済の様々なデータをわかりやすく「見える化」する「RESAS（地域経済分析システム）」を整備することで、地域が自らの課題を客観的に把握し、解決策を模索することを支援してまいります。

ここにお集まりの皆様は、いずれも地域において先進的な取組をされている素晴らしい自治体・事業者であると承知しております。本日はこの中でも特に、官民一体となり、革新的なビジネスモデルにより社会課題を解決し、商工業の発展や雇用創出を実現した取組を、経済産業大臣賞として表彰いたします。

今回の表彰を通じて、地域の先進的な取組が全国津々浦々に広がり、様々な地域において、地域独自のアイデアによる課題解決や地域経済の活性化が進むことを、大いに期待しております。

最後に、本日本日お集まりの皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

総務大臣政務官

## 輿水 恵一 氏



第3回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式の開催、誠にありがとうございます。

現在、日本は世界に類を見ない、超高齢化社会を迎え、その一方で人口が減少していくという難局を迎えております。

この難局を乗り越えるために、小宮山会長の提唱されている「課題解決先進国」に向かって進まなければならない、このような思いで、総務省も全力で取組を進めております。

私の担当しておりますICT分野では、ICT

を利活用して国民の皆様が距離や時間の制約を受けることなく、効率的で住みやすい社会作りを目指した取組を進めているところです。

例を挙げますと、テレワークや遠隔医療、ICTを利活用した学校教育、自動車の自動運転システムなどがございます。これらを皆様の生活の中にかに実装していくか、そのようなことを進めてまいりたいと思います。

スマートプラチナ社会を創造していく上で、本日発表いただいた取組のほか、各地で進められております先進的な取組が、我が国を「課題解決先進国」として大きく成長させることにつながることを願っております。

最後になりますが、小宮山会長、増田運営委員長、吉川審査委員長ほか、皆様のご尽力に心より敬意を表しますとともに、本日ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を心より祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

民主党衆議院議員

## 前原 誠司 氏



第3回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式の開催、誠におめでとうございます。

素晴らしい取り組みを募り表彰するこのプラチナ大賞、小宮山先生、増田運営委員長、吉川委員長はじめ審査委員の皆様のご尽力に心から敬意を表します。本当にありがとうございます。

57件の中から選ばれた10件の取り組みは、それぞれ素晴らしい取り組みであろうと思います。

また、吉川委員長もおっしゃったように、多様な内容が含まれておりますので、大変困難な

審査になるであろうと思います。

ただ私は、審査の結果もさることながら、それぞれの「プラン」が今後、どうされていくのか、このことの方が重要であろうと思います。つまり、良い「プラン」を立てても、それが実行され、継続されなければ、目的は達成されません。リーダーと実行するメンバーが一緒になって、困難があってもそれを乗り越えてやりきる、その思いが「プラン」の実現につながるのだと思います。

私がかつて学びました松下政経塾の創設者、松下幸之助さんは、「成功の要諦は、成功するまで続けることにある」、つまり継続すれば成功するのだ、とおっしゃっていました。

皆様方が、成功するまで挑戦を続けられ、素晴らしい成果を挙げられますことを、心からお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。

## 第3回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要

### 実施体制

- 【主催】** プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）  
プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）
- 【後援】** 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会
- 【事務局】** プラチナ大賞運営委員会事務局（プラチナ構想ネットワーク事務局）

#### 運営委員会

委員長	増田 寛也	日本創生会議 座長、東京大学公共政策大学院 客員教授
副委員長	秋山 弘子	東京大学高齢者社会総合研究機構 特任教授
委員	佐伯 徳生	プラチナ構想ネットワーク 事務局長

#### 審査委員会

委員長	吉川 弘之	元東京大学 総長、東京大学 名誉教授、産業技術総合研究所 最高顧問、日本学術振興会 学術最高顧問
副委員長	吉川 洋	東京大学大学院経済学研究科 教授
委員	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
委員	石戸奈々子	NPO 法人 CANVAS 理事長、株式会社デジタルえほん 代表取締役社長
委員	西條 都夫	株式会社日本経済新聞社 編集委員兼論説委員
委員	鈴木 克明	株式会社フジテレビジョン 専務取締役
委員	月尾 嘉男	東京大学 名誉教授
委員	増田 寛也	日本創生会議 座長、東京大学公共政策大学院 客員教授

## プログラム概要

- 13:15 **開会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 13:20 **運営委員長・審査委員長挨拶**  
プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也  
プラチナ大賞 審査委員長 吉川 弘之
- 13:30 **来賓ご挨拶**  
民主党衆議院議員 前原 誠司 氏
- 13:45 **最終審査発表会（プレゼンテーション）**  
ニセコ町、荒川区、珠洲市、株式会社イトーキ、川崎市・横浜市、  
積水ハウス株式会社、豊岡市、香川県、高知市、熊本県（発表順）
- 15:35 **来賓ご挨拶**  
総務大臣政務官 輿水 恵一 氏
- 15:40 **「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」** [同時間、並行して最終審査会を開催]  
香川県知事 浜田 恵造 氏《ビデオ出演》  
海士町長 山内 道雄 氏  
ヤマト運輸株式会社 岩手主管支店 営業企画課課長 松本 まゆみ 氏  
北九州市長 北橋 健治 氏  
(発表順)
- 16:30 **来賓ご挨拶**  
総務大臣 高市 早苗 氏  
経済産業大臣政務官 星野 剛士 氏
- 16:35 **審査結果発表／表彰式・プラチナシティ認定**
- 17:10 **閉会挨拶**  
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 渡 文明

最終審査発表会選出団体（発表順）

団体名	発表者	タイトル
ニセコ町 (北海道)	ニセコ町長 片山 健也 氏	「住民自ら考え行動する」 住民自治によるまちづくり
荒川区 (東京都)	荒川区長 西川 太一郎 氏	子どもの居場所づくり事業 ～子どもの未来を守る 荒川区の子どもの の貧困・社会排除問題への取組～
珠洲市 (石川県)	珠洲市長 泉谷 満寿裕 氏 金沢大学 特任教授 中村 浩二 氏	能登半島最先端の過疎地域イノベーション ～真の大学連携が過疎地を変える！～
株式会社イトーキ	ソリューション開発統括部 R&D 戦略企画部 部長 八木 佳子 氏	働きながらカラダとココロの健康づくり workcise (ワークサイズ)
川崎市・横浜市 (神奈川県)	川崎市長 福田 紀彦 氏 横浜市 副市長 柏崎 誠 氏	横浜市と川崎市との待機児童対策の 連携協定
積水ハウス株式会社	環境推進部 部長 佐々木 正顕 氏	「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを
豊岡市 (兵庫県)	豊岡市長 中貝 宗治 氏	豊岡の挑戦 ～小さな世界都市の実現に向けて～
香川県	環境森林部 環境管理課 水環境・里海グループ 課長補佐 大倉 恵美 氏	かがわの里海づくり ～自然共生型の新しい社会とライフスタイル を目指して～
高知市 (高知県)	高知市 副市長 吉岡 章 氏	こうちこどもファンド ～子どもたちの『やってみたい!』を応援 します～
熊本県	熊本県知事 蒲島 郁夫 氏	日本、そしてアジアをリードする 認知症対策の推進!!

※各団体のプレゼンテーションを含め、当日の様子は、下記 URL より動画にてご覧いただけます。  
<https://youtu.be/M9oh5kEbZbc>



## 受賞団体

2015年10月23日午後1時45分から最終審査会が開催され、最終審査発表会に進出した10団体のプレゼンテーションに基づいて、各賞受賞団体が決定しました。審査委員会の総意により、大賞は2つの取り組みに授与することとし、それぞれ表彰を行いました。

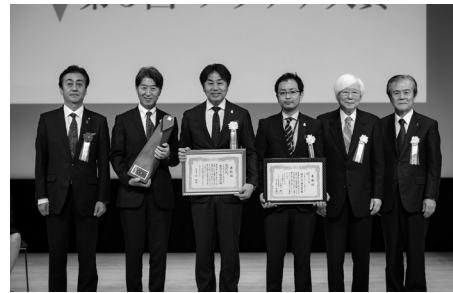
### 大賞・総務大臣賞

団体名 珠洲市（石川県）  
 取り組み名 能登半島最先端の過疎地域イノベーション  
 ～真の大学連携が過疎地を変える！～



### 大賞・経済産業大臣賞

団体名 積水ハウス株式会社  
 取り組み名 「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを



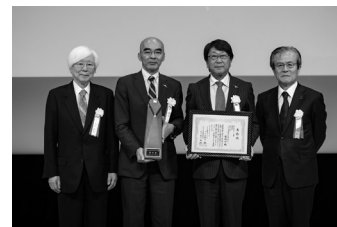
### 優秀賞

団体名 ニセコ町（北海道）  
 取り組み名 「住民自ら考え行動する」  
 住民自治によるまちづくり



### 優秀賞

団体名 豊岡市（兵庫県）  
 取り組み名 豊岡の挑戦  
 ～小さな世界都市の実現に向けて～



### 優秀賞

団体名 熊本県  
 取り組み名 日本、そしてアジアをリードする認知症対策の推進！！



---

審査委員特別賞

団体名 荒川区（東京都）  
取り組み名 子どもの居場所づくり事業  
～子どもの未来を守る  
荒川区の子どもの貧困・社会排除問題への取組～



---

審査委員特別賞

団体名 株式会社イトーキ  
取り組み名 働きながらカラダとココロの健康づくり  
workcise（ワークサイズ）



---

審査委員特別賞

団体名 川崎市・横浜市（神奈川県）  
取り組み名 横浜市と川崎市との待機児童対策の連携協定



---

審査委員特別賞

団体名 香川県  
取り組み名 かがわの里海づくり  
～自然共生型の新しい社会とライフスタイルを  
目指して～



---

審査委員特別賞

団体名 高知市（高知県）  
取り組み名 こうちこどもファンド  
～子どもたちの『やってみよう！』を応援します～



## プラチナシティ認定制度

イノベーションによる新産業の創出やアイデア溢れる方策などにより、地域の課題をすでに解決し「プラチナ社会」に向かいつつある、あるいは「プラチナ社会」実現に向けた明確なビジョンや具体的なアクションによる素晴らしい取り組みを始めている自治体が「プラチナシティ」です。

### プラチナシティ認定自治体

「プラチナ大賞」において各賞（プラチナ大賞、優秀賞、審査委員特別賞、プラチナ・イノベーション賞、その他今後新設される賞）を受賞した自治体です。



プラチナシティ  
認定バッジ



## 副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼<sup>つがるかなやまやき</sup>の特製のトロフィーを贈呈しました。

なお、2014年10月にプラチナシティのシンボルマークを公募にて策定したことを機にデザインを一新し、今回より受賞者の皆様には新しいデザインのトロフィーを贈呈いたしました。



大賞



優秀賞



審査委員特別賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏<sup>まつみやりょうじ</sup>が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼き締め」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通じることから、特別に副賞を制作いただきました。

## 最終審査発表会選出団体の プレゼンテーション



※各団体のプレゼンテーション資料やプレゼンテーション映像は、以下のサイトより  
閲覧することができます。

<http://www.platinum-network.jp/pt-taishou/>

## 能登半島最先端の過疎地域イノベーション ～真の大学連携が過疎地を変える!～

### 珠洲市 (石川県)

発表者：珠洲市長 泉谷 満寿裕 氏

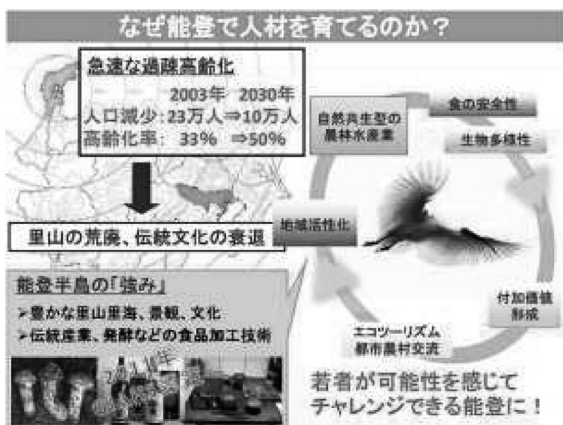
金沢大学 特任教授 中村 浩二 氏



### 取り組み概要

- 昭和 29 年の珠洲市制発足当時約 38,000 人の人口は、平成 27 年現在約 15,000 人まで減少。基幹産業となる 1 次産業は、高齢化と後継者不足により今後に大きな課題を抱えている。また、能登半島には高等教育機関がなく、特に奥能登地域では若者が高校卒業と同時に県都金沢や首都圏をはじめ県外へ進学・就職する。18 歳～20 代前半の人口減少が顕著である。
- 2006 年 7 月金沢大学から奥能登における金沢大学のサテライトとして、珠洲市内空き校舎（旧小泊小学校、現在の金沢大学能登学舎）を活用したい旨の要望を受け、その翌日には金沢大学に了承を伝え、今日まで継続している「大学連携事業」がスタートした。
- 当初は、金沢大学が民間ファンド（三井物産環境基金）を活用した「能登半島里山里海自然学校」としてスタートし、翌 2007 年 10 月からは、科学技術振興機構（JST）の事業採択により、能登の自然や伝統文化を活かした地域再生人材を育成する「能登里山マイスター養成プログラム」が始まった。受講生は、2 年間毎週土曜日（2012 年からの第 2 フェーズでは 1 年間隔週土曜日受講）能登学舎を中心に受講し、卒業論文の審査を経て金沢大学長から認定証書が授与される。
- これまでの 8 年間で、128 名の修了生を輩出し、珠洲市内からは 45 名が修了、県外からの受講生 13 名は、修了後も珠洲市内に定住し、現在も様々な分野で活躍中。2011 年 6 月に「能登の里山里海」が国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産（GIAHS）に認定された際には、大学と地域が連携した人材育成が評価された。
- 2014 年度から珠洲市の寄付財源によって金沢大学内に新たに寄附講座が設置され、GIAHS に認定された能登の里山里海研究を深めるための調査研究活動も行われている。加えてこうした事業展開を契機に黄砂観測や自動運転システムの研究が、珠洲市において始まっている。
- さらに、大学と地域で育んだ人材養成のノウハウは、ユネスコ世界文化遺産及び GIAHS に認定されているフィリピン・イフガオ棚田の人材養成に活用するなど国際貢献事業としても展開している。

### 参考図表



入学年度	入学者数	総員数	県外からのU・I・Jターン	県内からのU・I・Jターン	自治体・関係等からの推薦	応募希望	修了者数
H19 (一期生)	16	—	0	0	9	1	10
H20 (二期生)	20	—	3	1	10	3	16
H21 (三期生)	21	9	5	0	5	11	12
H22 (四期生)	27	2	6	1	6	6	24
H23 (五期・五期生)	—	12	(1)	—	(2)	—	—
H24 (新一期生)	40	1	4	2	5	14	22
H25 (新二期生)	42	4	7	3	1	7	23
H26 (新三期生)	30	5	5	2	0	2	21
累計	196	33	30	9	36	44	128

## 大賞・経済産業大臣賞

## 「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを

## 積水ハウス株式会社

発表者：環境推進部 部長 佐々木 正顕 氏



## 取り組み概要

## 私たちの想い…「住まいが変われば、社会が変わる。」

豊かで快適な「プラチナ社会」を創るためには、様々な主体の協働が欠かせません。

その中で、住宅という生活に深くかかわる商品を提供するハウスメーカーとして何ができるかを突き詰めると、社会の求める新しい価値を反映した商品やサービスを創り出し、その普及を通じて、社会課題を解決し、暮らしを豊かに変える、新しい流れをリードしていくことだと考えています。

本日の発表では、そうした想いが形になりつつある「5本の樹」計画を紹介します。地域の生き物の利用しやすい「在来種」の植物を、お客様のご理解を得てお庭や街区に植えていくことで、まちを命であふれ、市民みんなが本当の豊かさを実感できる都市を一緒に創りたいという提案です。

## ◆なぜこの取り組みをはじめたのか(背景と注目した社会的ニーズ)

気候風土に恵まれた我が国では自然は身近に存在し、人々は花鳥風月を愛で五感で四季の豊かさを享受しながら日々の暮らしを紡いできました。そのため、住宅の庭ではそこを訪れる鳥や蝶などの生き物のことよりも、むしろ美しさにこだわって「景観」を重視し、品種改良を重ねた「園芸種」や珍しい「外来種」の植物を珍重する傾向が見られました。

しかし、都市化が進んで身近な緑が減少し、身の回りから昆虫やそれを餌とする鳥たちも姿を消し、子どもが生き物と触れあって命の重さを肌で感じたり、大人も鳴く虫の声で季節を感じたりする機会も減ってきました。日本で一番多くの住宅を提供したくさんの庭を作っているハウスメーカーとして、事業の持続可能性を考える中で、庭づくりを介してこの状況を変えていきたいと考えました。

## ◆誰とどのように協働してこの計画を実現したのか(環境NPO、サプライヤーとの連携)

昔からその土地にあった植物「在来種」は、昆虫が花から吸蜜し、野鳥は実を採食し、また植物はそれで受粉や種を散布し、植物と昆虫・鳥類の間には相互に密接な関係があります。しかし、こうした「在来種」は当時あまり人気が無く、市場に供給できる体制がありませんでした。

そこで、これからの造園緑化のあり方を模索している若手の中堅植木生産者・造園業者のグループの協力を得て、当社の樹木医がNPOと一緒に選んだ「地域の生態系保全にも役に立つ植木」の価値を理解してくれた生産者達に「在来種」を生産してもらうことで植物を確保し、彼らにとってもメリットのある、公共工事依存から距離を置いた新しいマーケットの創出に結びついたのです。

## 参考図表

## ◆社会や地域に対しどのような効果があったのか(効果と展開)

この取り組みをお客様にお伝えするために、まず社員の自然観察会などを行って生き物への理解を深め、「5本の樹」の冊子を作って全社でお客様への提案を進めました。こうした取り組みの結果「5本の樹」樹種を中心とした当社の植栽本数は徐々に数を増やし、年間約100万本、2001年の取り組み開始からの累積植栽本数は約1100万本になっており、各地の生産者からの発信により、在来樹種の活用による緑化も社会に浸透しつつあります。

この効果を分析するために、全国の分譲地で「5本の樹」植栽の生物多様性に与える影響を専門家と住民一緒に調査をする「生き物調査」も行っています。生き物の活用するこうした在来植物を植えた庭や公園、校庭等が増えると、まちと郊外の「生きものの生態系ネットワーク」が拡がり、市民が植物によって癒され、命を身近に感じる豊かで快適な社会が拡がると信じています。

■自然を結ぶ里山ネットワーク



# 「住民自ら考え行動する」 住民自治によるまちづくり

ニセコ町（北海道）

発表者：ニセコ町長 片山 健也 氏



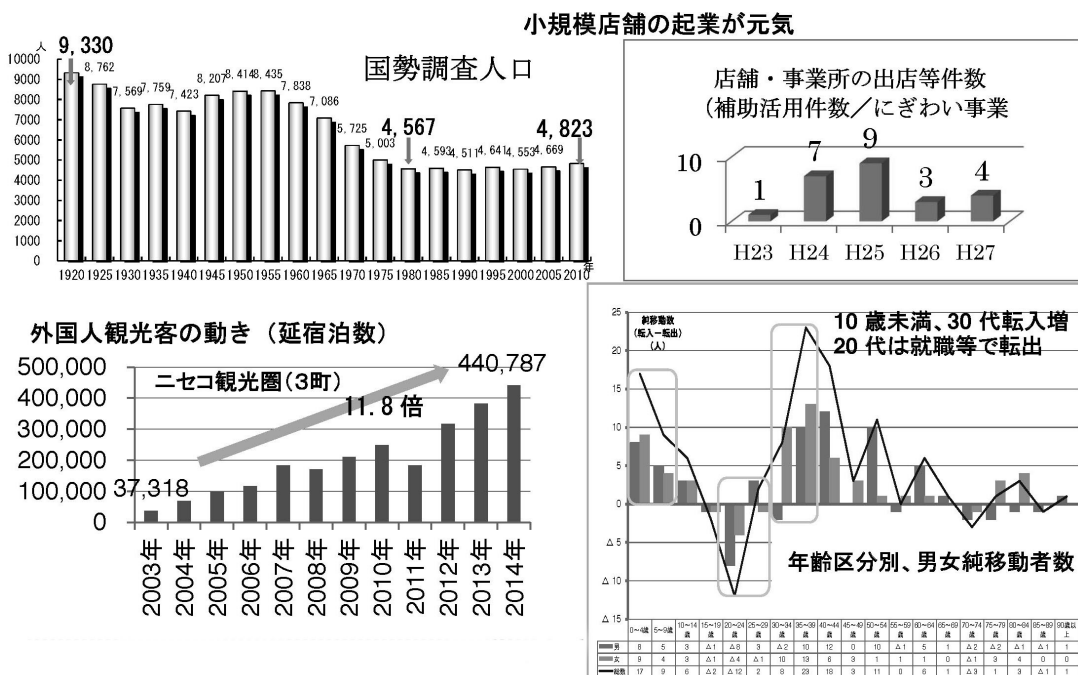
## 取り組み概要

「自ら考え行動する住民自治のまち」を目指す人口約5千人のニセコ町は、平成6年から徹底した「情報共有」と「住民参加」のまちづくりを実践し、「住民自治」が実現できることを学びました。

住民自治による住民主体のまちづくりは、住民の誇りと元気、チャレンジ精神を育みます。ニセコ町は、元気な町民が主役となって活動し、大きく飛躍し始めています。

- 農業者のやる気が人気の直売施設を支え、クリーン農業を推進。多くの特産品が誕生し、農家による人気レストランもオープンしました。最近では特区活用によるオーガニックワインまでもが誕生しています。
- 観光については、外国人観光客が激増しています。ニセコのパウダースノーが世界のスキーマーに認知され信頼を受けているのは、住民が滑り手の安全に心から関心を持ち、同時に滑り手の滑る自由を両立させる取り組みとして「ニセコルール」をつくり、支えているからです。また、海外富裕層などによる観光を中心とした開発が進む中、秩序ある開発を進めるために、事業者と住民が一緒になって準都市計画のルールをつくり、適正な開発と良好な人間関係が築かれています。
- 商業面では、農業生産者や転入者などが、小さな飲食店や事務所などを始めるケースが増えています。大手企業の誘致ではなく、自分たちの身の丈にあったビジネスが活気を生んでいます。
- これら、ニセコ町の農業、観光、商業はいずれも、私たちの宝である自然・環境がその基礎を支えています。「自然や環境を守り、適正に活用すること」が、これからのニセコ町の目標であり、町民の共通認識となっています。このためニセコ町は、環境モデル都市の認定を受け「資源・エネルギー循環」「経済循環」を両立すべく、官民一体での環境政策に取り組み始めています。
- 住民自治のまちづくりの結果、ニセコ町は、小規模自治体には珍しく子どもが増え、人口が増増傾向となっています。町をとりまく環境が変わろうとも、自治を希求する姿勢に変わりはありません。

## 参考図表





## 優秀賞

## 豊岡の挑戦 ～小さな世界都市の実現に向けて～

### 豊岡市（兵庫県）

発表者：豊岡市長 中貝 宗治 氏



#### 取り組み概要

#### 小さな世界都市 (Local & Global City) を実現する

人口減少が続く中、豊岡は、「小さな世界都市 (Local & Global City)」を目指している。

「小さな世界都市 (Local & Global City)」とは、ローカルであることをベースに、人口規模は小さくても、世界の人々から尊敬され、尊重されるまちである。それが実現した状態を「豊岡で世界と出会う」とし、様々な努力を重ねている。世界のマーケットを狙い、世界で輝くことによって地域の人々の誇りを取り戻し、まちづくりのエネルギーへとつなげる戦略。

#### ～ 豊岡で「小さな世界都市 (Local & Global City)」を実現するための5つの戦略 ～

##### I 受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐまちづくりを進める

グローバル化の進展によって急速に世界が同じ顔になり、文化的魅力を失いつつある中で、地域固有のもの、(日本的なものを含めて) ローカルなものこそが世界で輝くチャンスがある。日本の情緒を強く残す城崎温泉には、世界中から観光客が訪れている。

##### II 芸術文化を創造し、発信する

芸術文化は、成熟戦略を進める上で大きな推進力となる。芸術文化は、人々の暮らしの質を高め、地方の小さな市であっても人々がその地で生きることを楽しみ、肯定する大きな力となる。城崎国際アートセンターには、世界中からアーティストが滞在・制作で訪れている。

##### III 環境都市「豊岡エコバレー」を実現する

###### 1 コウノトリ野生復帰

コウノトリの野生復帰は、コウノトリをシンボルにして、コウノトリも住める豊かな環境 ―豊かな自然環境と豊かな文化環境― を再びこの地に創り上げようという活動である。日本の野外で一度絶滅したコウノトリであるが、いま、82羽が空を舞っている。

###### 2 環境経済戦略

環境行動自体の持続可能性確保等を目的に、環境と経済が共鳴する関係 ―環境経済― を広げる「環境経済戦略」を進めている。環境経済事業の売り上げは100億円近い。

##### IV 「小さな世界都市」を支える市民を育てる

地域に深く根差し、この地域を支えながら、世界の人々と結ばれる子どもたちを育てる。

##### V 情報発信戦略を進める

まちは知らなければ存在しないのと同じである。知らなければ、行き先の選択肢に入らない。国内外に向けた情報発信を戦略的に進めている。

## 日本、そしてアジアをリードする 認知症対策の推進 !!

### 熊本県

発表者：熊本県知事 蒲島 郁夫 氏



#### 取り組み概要

熊本県では、蒲島知事のもと、「長寿を楽しむ社会づくり」に向け、認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、日本一の認知症施策推進県を目指している。

認知症施策の基本方針として、①医療体制 ②介護体制 ③地域支援体制の3つの柱を立て、それぞれの体制を強化し、相互の連携を図っている。

①医療体制では、平成21年度当時、国のスキームにはなかった「基幹型」（熊本大学医学部附属病院）と「地域拠点型」（各地域における精神科病院）の2つに機能を分担して認知症疾患医療センターを指定し、これら2層が連携する医療体制を構築（熊本モデル）。この熊本モデルは本県の提案を受けて国が採用し、全国制度となるに至った。

現在、2層構造のセンターとかかりつけ医等が連携し、3層から成る新たな「熊本モデル」を構築し、認知症の更なる早期発見・早期対応を図っている。また、病院に勤務する看護師等医療従事者の認知症対応力を向上させるため、熊本独自の「オレンジナース」と称する病院内講師を養成し、院内研修を繰り返し実施することで、研修受講者を飛躍的に増加させる仕組みをつくった。

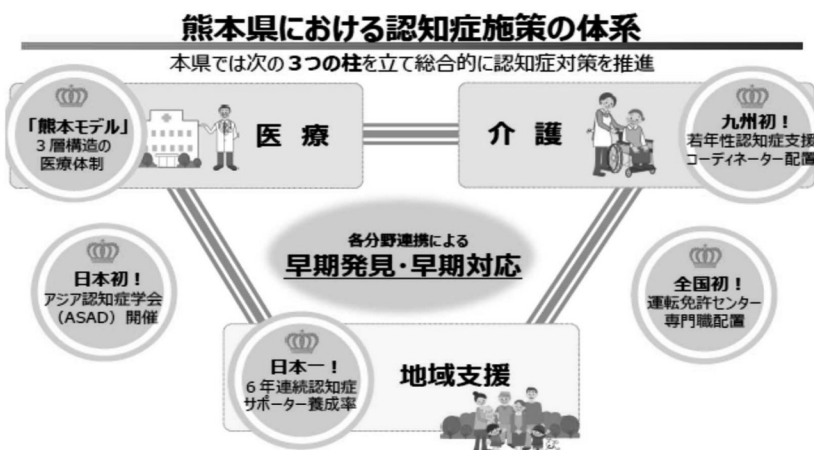
②介護体制では、認知症ケアの質を向上させるため、講師が事業所に出向いて、従事者全員を対象に研修を実施する「認知症ケア・アドバイザー派遣事業」を平成24年度から独自にスタート。また、平成26年5月、九州で初めて「若年性認知症支援コーディネーター」を配置し、若年性認知症に係る相談に対する一元的な情報提供や、サービス機関への適切なつなぎを行っている。

③地域支援体制では、認知症サポーターが平成27年3月末時点で22万人を超え、人口比で6年連続日本一を達成。現在、サポーターによる見守り活動など、認知症の人とその家族が安心を実感できる地域づくりを進めている。

これらの取り組みに加え、本県では、県警本部と連携して、平成27年2月、全国で初めて運転免許センター内に専門職（看護師）を配置。認知症等病気の可能性がある相談者に対して、専門的視点から必要に応じて医療機関受診や運転免許証の自主返納等を勧奨し、認知症の早期発見及び高齢者の交通事故防止につなげている。この取り組みについては、全国から問合せを受けている。

また、今年9月には、アジア13か国・地域の認知症研究者が参加する「アジア認知症学会」が、日本で初めて熊本県で開催。学会では、本県の認知症施策をPRし、県内の医療・介護施設視察ツアーを実施し好評を得るなど、今後高齢化が進展するアジアとの交流拡大につながった。

#### 参考図表



審査委員特別賞

子どもの居場所づくり事業

～子どもの未来を守る

荒川区の子どもの貧困・社会排除問題への取組～



荒川区 (東京都)

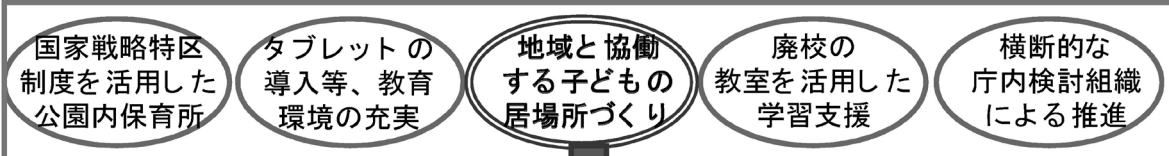
発表者: 荒川区長 西川 太一郎 氏

取り組み概要

**荒川区のドメイン** 区政は区民を幸せにするシステムである → 不幸を減らす取組

平成21年度 一般財団法人 荒川区自治総合研究所を設立  
同研究所と共に「子どもの貧困・社会排除研究プロジェクト」を開始  
平成23年度 子どもの貧困・社会排除問題研究プロジェクト 最終報告書  
→42の調査事例のケーススタディをもとに、子どもの貧困・社会排除の世帯における「リスク」と「決定因子」を分析

貧困からの脱却に向けて様々な事業を推進 (下記は一例)

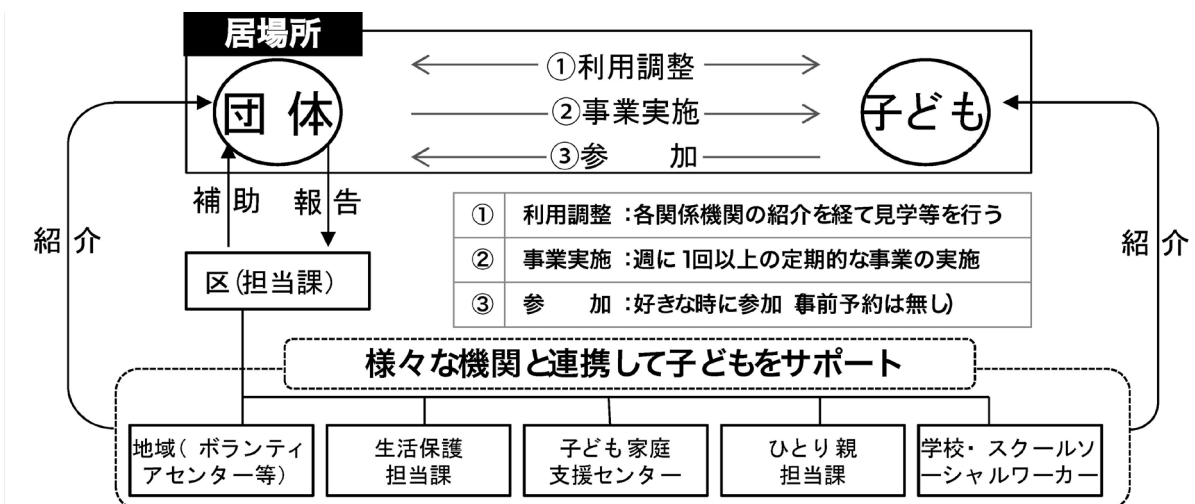


「学習支援」「食事提供」「交流」を行う居場所づくりは様々な課題を解決する新たな事業

荒川区 子どもの居場所づくり事業<概要>

参加者	スタッフ	主な事業内容	補助対象	その他
○18歳までの子どもで生活困窮世帯等支援が必要な子ども	○地域のボランティアが中心 (10代~70代) ・塾の講師、学生、調理師等	○学習支援 ○食事の提供 ○子ども同士、子どもと大人の交流	○事業実施団体 ○区は運営者へ子ども人1回参加毎に2,000円を補助	○週1回~2回程度の開催 ○区内2か所で実施

参考図表



## 働きながらカラダとココロの健康づくり workcise (ワークサイズ)

株式会社イトーキ

発表者：ソリューション開発統括部 R&D 戦略企画部 部長 八木 佳子 氏



### 取り組み概要

#### 【“人も生き活き、地球も生き生き”実現のために】

イトーキは、「人も生き活き、地球も生き生き～新 Ud&Eco style」を企業理念として掲げ、人の幸福と地球環境の維持を両立できる社会を目指して事業を行う会社です。主な事業はオフィスなどの人が働き、暮らす環境づくりですが、働く人が健康で安心して長期間にわたって働き続けられるような環境を作りたいと考え、「Workcise (ワークサイズ)」という考え方を提案しています。

#### 【今の働き方のあたり前を見直す】

一日のほとんどを席に座ってコンピュータと向き合って過ごす。外回りの後オフィスに戻って深夜まで資料を作成する。これらはこれまでのオフィスではよく見られた光景です。こういった働き方は、なんとなく体に悪そうだとわかってはいても、仕事のためには多少健康を犠牲にするのは仕方がない、と思っている人も多いかもしれませんが、長期に渡って続けると、働く人の健康を害し、モチベーションや仕事の満足度を下げ、組織全体の生産性も下げてしまいます。

#### 【Workcise で実現する“働きながら健康増進”】

ここで少し発想を変え、仕事にも健康にも良い行動（ワークサイズ）を優先的に増やすような働き方をすれば、仕事がかどり、健康も害さず、長期に渡って生き活きと働き続けることが可能です。さらに、こういった働き方を、個人の意識と努力だけに頼って実現するのではなく、オフィスの環境や仕組みを整備してサポートすれば、個人の意識の違いによらずワークサイズを促し、組織としての持続的な健康増進と生産性向上につなげることができます。

### 参考図表



## 審査委員特別賞

## 横浜市と川崎市との待機児童対策の連携協定

## 川崎市・横浜市（神奈川県）

発表者：川崎市長 福田 紀彦 氏

横浜市 副市長 柏崎 誠 氏



## 取り組み概要

## ＜待機児童対策の必要性＞

「少子化対策」、「女性のさらなる社会参加促進」のために必要で「基礎自治体の重要な役割」

## ＜横浜市と川崎市の待機児童対策の状況＞

平成22年4月時点での待機児童は、横浜市1,552人、川崎市1,076人と全国ワースト1・2位その後、両市ともに保育所の大幅な整備や、窓口でのきめ細かい相談対応により待機児童ゼロを達成

## ＜待機児童対策における課題＞

「保育ニーズの急増」、「人口動態の地域差」などの課題を抱える中、待機児童ゼロを継続していくこと。

## ＜連携協定の締結＞

従前は自治体単独で保育ニーズに対応していたが、今後は自治体が連携し圏域を越えた対応が必要。そこで、川崎市側から働きかけを行い、隣接市間で全国初となる連携協定の締結に至った。

## ＜協定の主な内容＞

- |             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 保育所等の共同整備 | 保育需要を相互補完する場所に共同整備(川崎市幸区に平成28年4月開設) |
| 2 保育施設の相互利用 | 既存保育施設の共用により、預け先の選択肢が拡大(平成27年4月開始)  |
| 3 保育士の確保対策  | 説明会や面接会による人材確保(両市共同の就職セミナー開催)       |

## ＜協定締結による3つの効果＞

- |                                              |
|----------------------------------------------|
| 1 保育サービス利用において従来の行政区域の境界を撤廃し、市民サービスを向上       |
| 2 大都市間の先進的な連携を自治体間の新しい連携モデルに(地方制度調査会で取り組み紹介) |
| 3 両市の相互補完による行政運営の効率化により、持続性のある行政サービスを提供      |

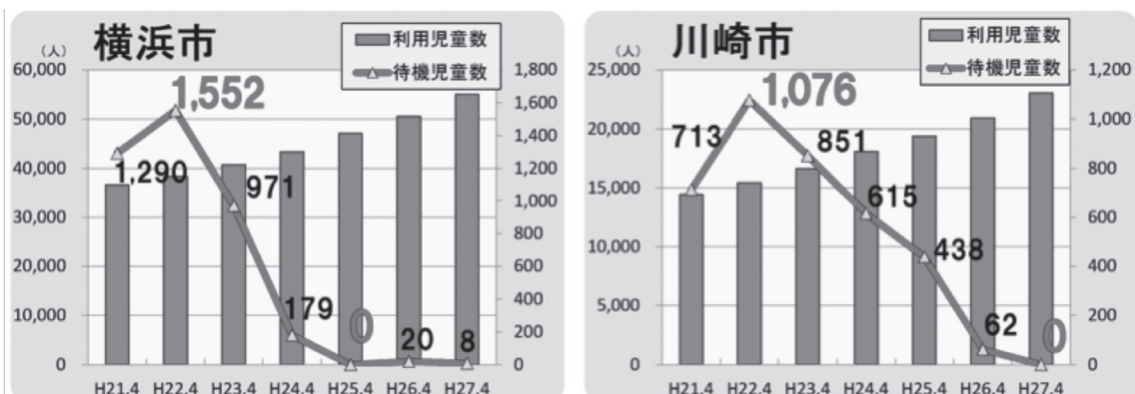
## ＜まとめ＞

STEP 1 協定締結はスタートライン

STEP 2 ① 多くの市民がメリットを享受する取り組みに ② 両市職員の意識改革

STEP 3 ① 自治体間の連携モデルを確立 ② 防災や市民利用施設など他分野への展開

## 参考図表



# かがわの里海づくり ～自然共生型の新しい社会とライフスタイルを目指して～

## 香川県

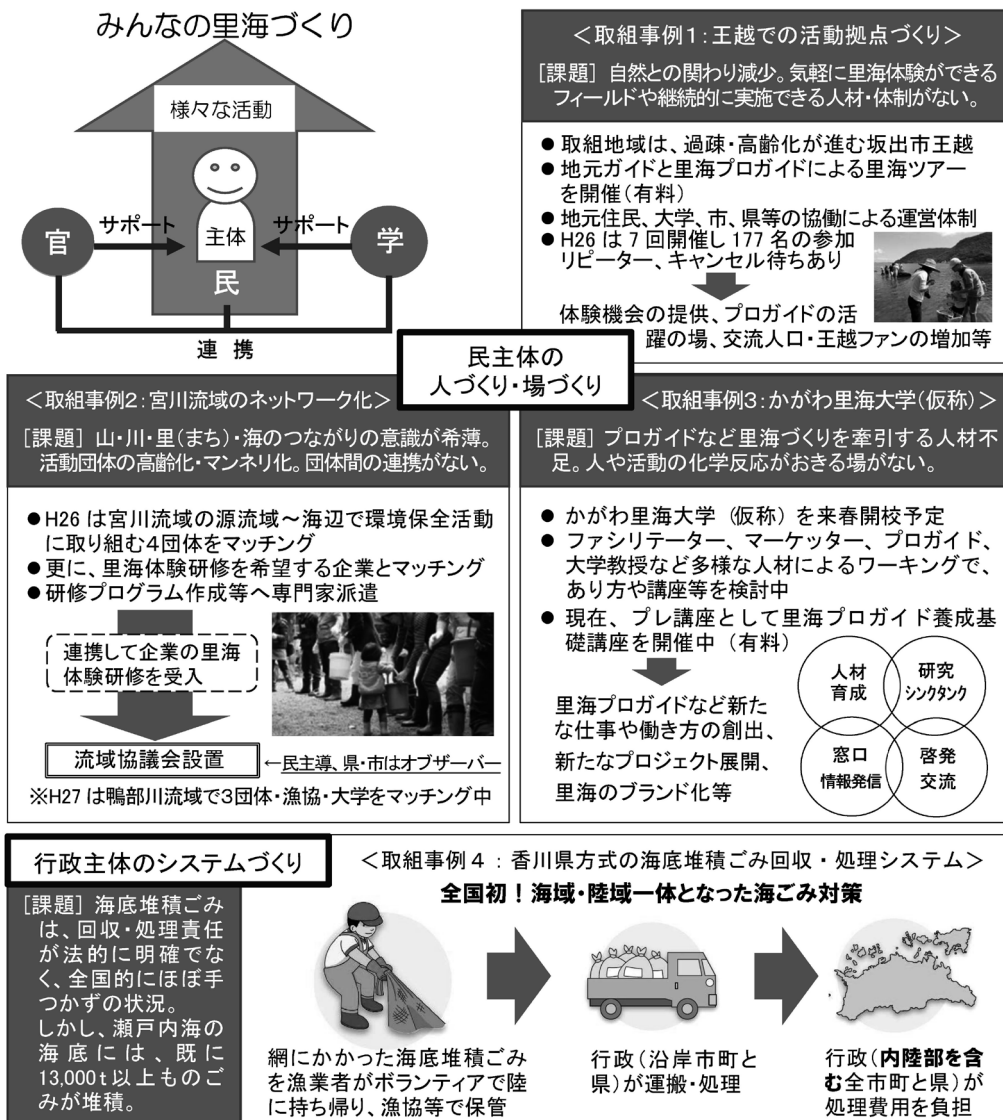
発表者：環境森林部 環境管理課 水環境・里海グループ  
課長補佐 大倉 恵美 氏



### 取り組み概要

1000年先の未来へ。  
全国初、全県域を対象とした「里海づくり」  
香川県では、瀬戸内海を「美しさ・生物多様性・交流と賑わい」を兼ね備えた「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」としていくための「里海づくり」を、平成25年度から推進している。県民みんなで山・川・里（まち）・海のつながりを大切に保全・活用していくこの活動は、行政が一定の役割を担いつつ【民】を主体とした「民・学・官連携」により、自然共生型の新しい社会とライフスタイルの実現を目指すものである。

### 参考図表

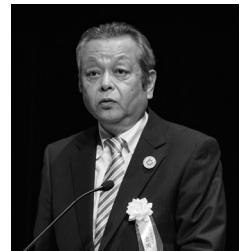


審査委員特別賞

こうちこどもファンド  
～子どもたちの『やってみたい!』を応援します～

高知市 (高知県)

発表者: 高知市 副市長 吉岡 章 氏



取り組み概要

～ 自由な発想は、土佐の山間から ～

こうちこどもファンドは、将来の高知市を担う子どもたちの『自分たちのまちを良くしたい!』そんな想いを実現させるため、積立金と寄附金を原資として助成を行う全国に先駆けた取り組みです。

- 【特徴】**
- ① 子どもたちが提案 → 自分たちで考えた活動を公開プレゼンテーションの場で説明
  - ② 子どもたちが選考 → 「こども審査員」が子どもの目線で厳しく審査
  - ③ 子どもたちが実行 → 自分たちの想いを自分たちで活動し魅力的なまちを創生

**【審査のポイント】**

- |           |       |             |
|-----------|-------|-------------|
| ○ 地域への有効性 | ○ 計画性 | } こども審査員が決定 |
| ○ 市民への共感性 | ○ 熱意  |             |
| ○ チームワーク  | ○ 持続性 |             |

**【効果】**

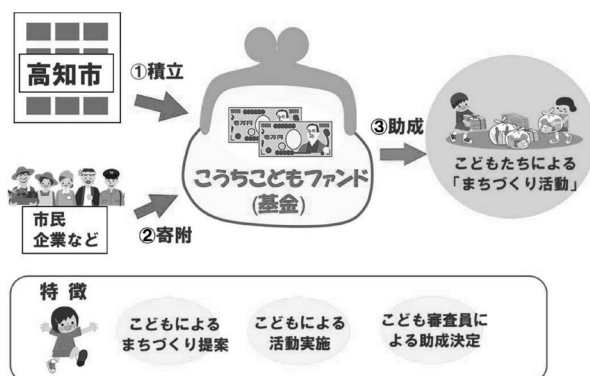
- ① 将来の高知市のまちづくりを担う人材の育成  
→ 主体性を醸成し、コミュニティ能力やシチズンシップを育む
- ② 子どもを中心としたまちづくりの活性化  
→ 実際に活動する子どもを大人がサポートすることで更なる活性化が生まれる
- ③ 子どもにやさしい高知市の実現  
→ 子どもらしい感性やアイデアをまちづくりに反映し安心で安全なまちの構築

※ 活動を通じて、「誰かが喜んでくれる」。そんな未来を創る子どもたちを応援します!!

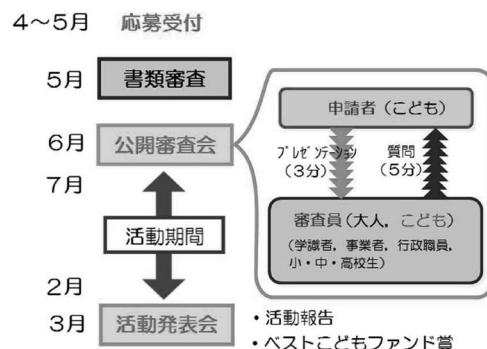


参考図表

＜制度の仕組み＞



＜年間スケジュール＞



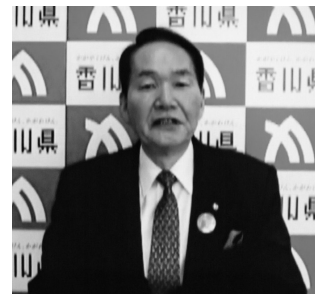
## 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告

### [第1回 特別賞]

かがわ遠距離医療ネットワーク「K-MIX」を活かした  
遠隔・在宅医療の推進

### [第2回 審査委員特別賞]

世界をリードする香川の希少糖



香川県知事  
浜田 恵造 氏  
(ビデオ出演)

皆さん、こんにちは。香川県知事の浜田でございます。本日の第3回プラチナ大賞最終審査発表会では、本県は「かがわの里海づくり～自然共生型の新しい社会とライフスタイルを目指して～」ということで発表いたしました。

事務局から伺ったところ、会員の中では唯一、3回連続で最終審査発表会に進んだ団体とのことですので、本日は私自身が発表し、また、各地の先進的な取り組みを是非拝聴したかったところですが、公務の都合により参加できず、大変残念に思っております。

さて「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデア溢れる方策などにより社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの取り組みを顕彰し、社会への広がりにつけていくことを目的とされておりますが、現在我が国は、人口減少や少子高齢化の進行、財政状況の悪化、経済のグローバル化の進展など、社会経済情勢の急激な変化により大きな岐路に立っております。

私は、将来世代に豊かで明るい社会を引き継いでいくためには、困難と思える課題にもこれまでの知見を活かしながら、新たな視点に立って積極果敢にチャレンジすることが何よりも重要ではないかと強く感じており、そのような思いがまさにプラチナ大賞の理念と合致するところと考え、これまで積極的に応募してまいりました。

第1回プラチナ大賞では、本県は、かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」で特別賞をいただきました。「K-MIX」が全国初の全県的な遠隔医療ネットワーク導入の取り組みとして評価されたことなどから、来年の伊勢志摩サミットに合わせて開かれる情報通信大臣会合が本県高松市で開催されることとなっております。

また、第2回プラチナ大賞では、「香川の希少糖」が審査員特別賞をいただきました。本年から地元香

川大学で希少糖学の講座が開講したほか、米国食品医薬品局により一般の食品としての安全性が認められ、販売に向けた取り組みが本格化するなど、新たな段階に展開してきています。

今後とも、プラチナ大賞に応募する他の自治体や企業の取り組みを参考とさせていただきながら、香川県を活力に満ちた地域にしていきたいと思っております。

ところで、2016年3月20日から現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2016」が開幕します。この芸術祭は、「海の復権」をテーマに掲げ、現代アートを通じて、過疎化・高齢化が進みながらも、美しい景観や固有の文化が残る瀬戸内の島々に、活力を取り戻すことを目的としていま



す。過去2回の開催では多くの方々にご来場いただき、2015年9月には「ツーリズム EXPO ジャパン2015」の「第1回ジャパンツーリズムアワード」の大賞を受賞するなど、国内外から高い評価をいただいております。プラチナ社会を目指す取り組みといえるのではないかと自負しております。

2016年の芸術祭では、小豆島や直島をはじめ瀬戸内海の12の島々などを舞台に、春、夏、秋の3会期に分けて開催するほか、これまでと異なる要素として、瀬戸内の他地域などとの「連携」や、地域の固有の食文化に着目した「食」プロジェクトの強化、地球規模の交流へとつなげるための「国際化」を重点に置いて取り組んでまいります。

皆様には、ぜひ香川県にお越しいただき、会場となる島々などを訪れる人々とそこに暮らす人々との出会いから生まれる新しい活力を肌で感じていただければ大変幸いです。

結びに小宮山会長はじめ、皆様のますますのご健勝を心より祈念申し上げ、私からのメッセージいたします。ありがとうございました。



[第1回 大賞・総務大臣賞]

魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり  
～島前高校魅力化プロジェクトの挑戦～



島根県海士町長  
山内 道雄 氏

海士町にあります島根県立隠岐島前高等学校は、超少子高齢化の影響で、入学者数は減少の一途をたどり、存続の危機に直面しました。

廃校となれば、家計負担の著しい増加、ひいては一家での島外移住も想定されることから、高校の存否はコミュニティの存否に直結します。

そこで、平成20年度に、産官民学が協働し地域総がかりで島前高校の魅力化を目指す「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」を立ち上げました。

魅力化のための様々な策を展開する中、生徒数は増え続け、平成24年度には、離島中山間地域の高校では異例の学級増があり、現在も説明会やオープンスクールには、百数十名の子どもたちが島に来られ、また島外からの入学に際しては一家で島に渡って来られるケースもあり、この結果、子連れの定住も増えております。

以下に直近の取り組みの例を挙げます。

- グローバルにもローカルにも活躍できる「グローバル人材」を育成するため、シンガポールへの修学旅行を開始、シンガポール国立大学において、地域の魅力や課題についての発表と意見交換を実施。この取り組みが評価され、離島の高校としては初めて文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの認定を受ける。
- 平成27年の4月には、公立の塾である「隠岐國学習センター」設立し、教科指導だけではなく、自分の夢と地域社会との交わりから自分たちの進路を考える「夢ゼミ」を実施しており、石破茂大臣や小泉進次郎先生もご視察の際にご参画いただいた。
- タブレットを活用した遠隔授業の取り組み。タブレットを90台導入し、まずは隣の島の中学三年生を対象に実施、ゆくゆくは船が欠航した際に登校できなくなる高校生をも対象とすべく準備中。また、外部向け遠隔授業を事業化し、外貨獲

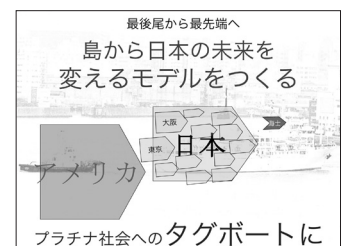
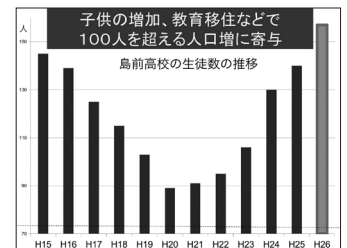
得につなげたい。

- 平成27年7月、島根大学に「地域教育魅力化センター」が設置され、全国自治体の職員やNPOなどに所属する社会人が、海士町などでフィールドワークを体験するという、大学との連携も開始。
- 平成27年夏、島前高校の主催で、まちづくり甲子園を開催、愛媛や兵庫、三重などからも高校生が参加し、島前高校の生徒とともに離島・中山間地が抱える地域課題の解決に向けた活動を実施。あるチームは福祉施設を訪れて、高齢者の方々から課題を聞き、アドバイスを参考にしながら福祉の問題解決に向けた施策を発表。
- 平成27年9月、島前高校の生徒が福島へのふたば未来学園を訪問、被災地の課題に触れる。

第1回プラチナ大賞におけるご報告以降も、以上のように様々な取り組みを展開しており、島前高校魅力化の取り組みは、県下の中山間地をはじめ、鹿児島など各地の離島、あるいは北海道各地にまで、広がりを見せています。

人を育て、その人が地域に根差すこと、これが地方創生の源となると考えておりますので、今後も、地域で学び、地域で支え、地域に根差す魅力ある学校づくりを通して、未来の担い手を育成し、持続可能な島づくりを行ってまいります。

そしてプラチナ社会をけん引するタグボートになれるよう、これからも自立・挑戦・交流を続けていく覚悟です。



[第2回 大賞・総務大臣賞]

地域に密着したヤマト流 CSV 「まごころ宅急便」

ヤマト運輸株式会社 岩手主管支店 営業企画課 課長  
松本 まゆみ 氏



配達先のおばあちゃんの孤独死という原体験から、「私に何ができるのか」「企業としては、見過ごすの？ほんとにそれでいいの？」ということは何度も何度も考えてきました。昭和の時代を必死に支えてくれた方が最期誰にも気づかれずに、ひっそりと亡くなるなんて、あってはならないことです。私は、この日本から孤独死をなくしたいと思って、日々の業務に取り組んでおります。

私の勤めるヤマト運輸は、全国に物流のネットワークがあり、そこで働く社員は約16万人、そしてそのセールスドライバーのほとんどが、その土地で生まれ育った現地採用の社員です。近所のおじちゃん、おばちゃんと呼ぶ間柄です。また、宅急便はお客様の顔を見て配達します。見て触れて、気づいた情報を見守り活動に活かさないかと、考えたのが「まごころ宅急便」です。この「まごころ宅急便」は、高齢者の一番のお困りごとであるお買い物の代行と見守りを組み合わせたもので、自治体や、県の社会福祉協議会、NPO、地域の商店街、ドラッグストアなどいろいろな方たちと連携をして、実施しています。

その後の取り組みとして開始したのが、テレビCMでよく見かける、リコール品を抱える家電メーカーさんに代わって、リコール家電の調査、回収を請け負い、あわせて高齢者の体調やお困りごとのヒアリングをして行政に伝える仕組みです。家電メーカーさんはリコール品の発見率の高さに驚かれ、自治体からは「一切のお金をかけずに地域の安心、安全を確認できる」と非常に喜んでいただいております。

ほかにも、商工会と連携してお買い物代行と見守りを行う高知県大豊町での取り組み、自治体の定期刊行物を配達しながら見守りを行う青森県黒石市での取り組みなど、全国で高齢者を支援する事業がスタートしています。

また、これまでの事業を通じてたくさんの地域の声を聞く中で、買い物に行けない、病院が遠くて大

変、という声が多く寄せられました。つまり街に出るまでの足が無いということです。過疎地では路線バスが廃線を余儀なくされることがありますが、地域で安心して暮らし続けるには、足となる公共交通の維持がすべての人にとって、自立した生活を送るうえで必要不可欠だと知ったのです。

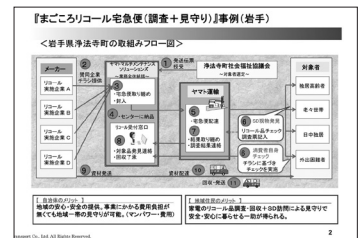
そこで2015年6月には、「貨客混載」の取り組みをスタートさせました。乗客が減っていくバスのスペースにヤマト運輸の荷物を積むことで、路線の維持を図るものです。バス会社の定期収入の確保、環境への貢献、地域の安心などを掲げ、取り組んでおります。

少子高齢化、地域衰退、高齢者の孤立など、その背景には、様々な社会課題があり、そのまま次世代の住民の不安につながっています。

私たちの物流ネットワークは網の目であり、どこかにいる、そのたった一人を孤立化させてはいけない、これがヤマト運輸の「まごころ宅急便」関連の取り組みです。

自治体と連携した取り組みは今年で6年目、形は様々ですが、現在全国約300か所に水平展開されています。企業の持つノウハウは社会の財産です。

日本中にあるこのたくさんの財産を持ち寄れば日本を支える大きな柱になる、一企業単独の取り組みにとどまらず各ステークホルダーとの連携と共有を進め、この日本から孤独死が無くなるまで、進んでいきたいと思っています。



[第2回 大賞・経済産業大臣賞]

都市間連携を通じたアジアのグリーンシティ創造

福岡県北九州市長  
北橋 健治 氏



はじめに、昨年、プラチナ大賞・経済産業大臣賞をいただいた際に述べました、三つのエピソードを改めて振り返らせていただきます。

一つ目はアジア低炭素化センターの取り組みです。これは、アジアにおけるグリーンシティ創造のために設置したもので、企業・大学と連携してアジアの各都市でプロジェクトを展開しております。

二つ目は、「北九州モデル」の提案です。本市は、廃棄物・エネルギー・上下水・環境保全といった環境分野のノウハウ・技術・マンパワーを持っております。そこで、これらをパッケージ化し、「北九州モデル」としてアジアの各都市において活用していただき、まちづくりのお手伝いをする、ということ意識して取り組んでまいりました。

三つ目は、具体の成功事例のご紹介でした。一つは、インドネシアのスラバヤ市における安全で衛生的なリサイクル事業の展開、もう一つは、ベトナムのハイフォン市における水道に関する技術協力です。

取り組みのその後ですが、インドネシア第二の都市、スラバヤ市に対して行っております、ごみ発電に関する提案が挙げられます。一日500トンの廃棄物で6.75メガワットの発電を行う、というものです。スラバヤ市との廃棄物事業の関わりについて言えば、以前、Jパワーの社員の方が発明されたコンポストをスラバヤ市にご紹介したことがありました。結果、2万世帯の方々が、街なかにごみを捨てるのをやめ、コンポストを使って生ごみからたい肥を作るようになり、廃棄物発生量が削減したほか、美しい街づくりや市民の環境意識の向上に貢献しました。

当時の環境局長がスラバヤ市長となられ、このような取り組みのご縁で、現在スラバヤ市と環境姉妹都市締結をさせていただいています。

また水道に関する技術協力では、カンボジアのプノンペンにおいて、私どもが開発をしました

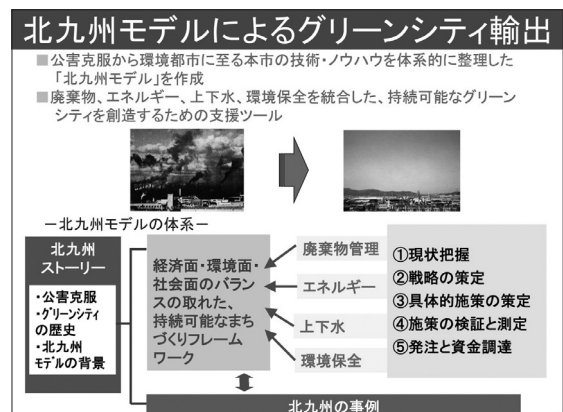
U-BCFが導入され、従来漏水・盗水が72%に及んでいたものが8%にまで縮減され、先進国並みの水準となりました。また、一日のうち8時間程度しか水が出なかったものが、24時間水が出るようになりました。このような背景から、2015年7月、カンボジアのフンセン首相より今後のプノンペン都との姉妹都市のお話もいただき、カンボジアとの関係はさらなる進展を見せております。

さらにタイとの関係では、タイ国政府とタイの工業団地の皆さんとの間でMOUを結びまして、工業団地におけるエコ化について北九州市が携わることになり、現在実施中であります。

最後に中国です。日中の合意の上に、双方の自治体間で大気汚染防止対策の技術移転を5年間実施するということが決まりました。私どものパートナーは、上海・天津・武漢・唐山・邯鄲の各都市でございます。これが中国との間の新しい関係を築ききっかけになれば、と思っております。

プラチナ大賞をいただいてからも、「エコ」をサステイナブルなものとするために、いかにビジネスにつなげていくか、またアジア各国とのフレンドリーなネットワークをいかに築き発展させるか、そのような点に主眼を置き頑張っております。

ご清聴ありがとうございました。



[コメント]

プラチナ構想ネットワーク 会長  
小宮山 宏



私たちの目標は「日本を良くする」ということですので、表彰して終わり、ではなく、表彰された取り組みが、その後どのように展開されているのか、この点が非常に重要です。

その意味で、過去にこの「プラチナ大賞」の各賞を受賞された企業、自治体の皆様に「その後」のご報告をいただいたこと、大変うれしく思います。

トップのリーダーシップの下、その後も素晴らしく発展されているということがわかって、本当にうれしかったです。

さて、今日は指標を用いて「プラチナ社会度」を測る試みについて少しお話をいたします。

図1ですが、低炭素、健康自立、経済活動、コミュニティの各指標の状況が、人口の社会増減と合計特殊出生率に反映されてくるのではないかと考えています。

図2を作ってみて、なかなか難しい分析であることがわかりました。こちらの各自治体は、いずれも過去のプラチナ大賞を受賞した団体ですが、例えば横浜や柏の数値が高いのは、東京に近いからで、経年変化を見ないとわからない。また北九州市を見ると、重化学工業の発展とともに人口が増えて、産業構造の変化とともに人口が減ってきた。そのような背景がある中で、こういった状況にある、とどまっているというのは、恐らく良いことなのだろうと。このように、もう少し細かい分析が必要であることがわかってきました。

次に図3の合計特殊出生率ですが、こちらは、横浜や柏が低い。増えてきてはいる。富山市から北九州市までの各市町は、全国平均を相当上回っているんです。プラチナ大賞を受賞された自治体は、やはり恐らく良い方向に向かっているのだらうと思います。

このような分析とそれに基づく評価をどのようにしていったらよいか、会員の皆様に相談しながら考

えていきたいと思っています。

報告いただいた皆様、改めましてありがとうございます。ありがとうございました。

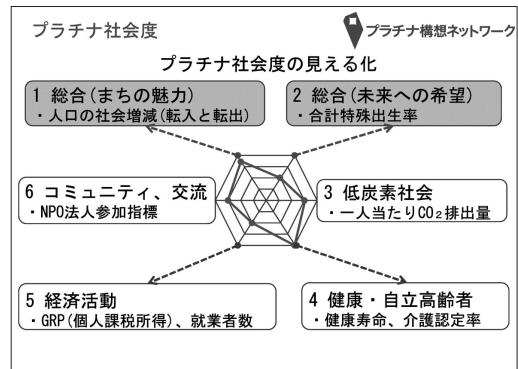


図1

プラチナ社会度

プラチナ構想ネットワーク

1 総合(まちの魅力)

【人口の社会増減率】

	1995年	2005年	2015年
柏市	-0.14%	0.05%	0.48%
横浜市	-0.23%	0.38%	0.20%
富山市	-0.12%	-0.04%	0.15%
豊田市	-0.10%	0.20%	-0.38%
雲南市	-0.31%	-0.11%	-0.54%
海士町	-0.61%	0.60%	0.46%
北九州市	-0.13%	-0.24%	-0.24%
全国	0.01%	-0.01%	-0.04%

資料: 「住民基本台帳人口要覧」公益財団法人国土地理協会より作成

図2

プラチナ社会度

プラチナ構想ネットワーク

2 総合(未来への希望)

【合計特殊出生率】

	2007年	2012年
柏市	1.19	1.28
横浜市	1.22	1.29
富山市	1.38	1.44
豊田市	1.51	1.62
雲南市	1.59	1.60
海士町	1.50	1.64
北九州市	1.34	1.50
全国	1.31	1.38

資料: 「人口動態統計」「人口動態保健所・市区町村別統計」厚生労働省大臣官房統計情報部より作成  
注: ※は、2012年の全国値を超えている市町村

図3

## 審査委員長 講評

プラチナ大賞  
審査委員長

吉川 弘之



本日、登壇していただきました皆様の発表から、取り組みに対する情熱がひしひしと伝わってまいりました。同時に、発表いただいた方々とともに、苦労しながらもいきいきと各プロジェクトに取り組んでおられる大勢の方々の姿が浮かび、心を打たれました。すべての取り組みが満点ではないか、と思いましたが、心を鬼にして全委員で真剣に議論をし、各賞を決定いたしました。

この過程で強く感じましたのは、県も市も町も企業も、それぞれ異なる使命を持ちながらも、同じ目標を持つことにより、同じ方向に向かい、同じことができるのだ、ということです。このことは、私たちは、いわゆる科学技術の分野におけるイノベーションとは異なる「社会的イノベーション」がいかに起こるか、その過程を学ぶこととなるのです。

プラチナ社会を作ろうとしている各主体が、日常の業務の中に、プラチナ社会実現に向けた仕組みを埋め込むという、非常に困難な作業を様々な工夫をしながら試みている。

大賞を受賞されました珠洲市については、いかに過疎を解消するかではなく、過疎は資源である、過疎をどう活用するか、という風に視点を変え、大学と連携し、空き教室を活用し世界に認められるような人材教育を進めておられます。この珠洲市の取り組みからは、過疎は怖く

ないというメッセージが伝わってまいりました。

また、もう一つの大賞、積水ハウスの取り組みですが、フランスの小説『木を植えた人』を思い出しました。これは、プロバンスの荒地に、一人の男が何年もかけて木を植える、やがて荒地は若者が集う楽園のような場所になる、というお話です。

「5本の樹」の取り組みから、ビジネスの中にこの小説と同じような思想や美しい夢を埋め込んで、荒地に木を植えて続けて楽園を創り出すのと同じことを、ビジネスによっても実現できるという大きな発見をいたしました。企業の力は非常に大きい、ただしその潜在的な力がまだまだ十分に発揮されていない。そういう意味で、この取り組みは他の企業にも大きな示唆を与えているのではないかと思います。

今回受賞された取り組みのすべてに触れることはできませんが、各団体に対し、心からお祝い申し上げるとともに、ご努力に対する感謝を申し上げたいと思います。

今回57の候補から10の賞を選ばせていただきましたが、受賞されなかった団体も共にプラチナ社会を作っていく一員として、ぜひ頑張ってくださいと思います。

第3回を迎え、私も様々なことを学んでおりますし、皆さんもそうだと思います。

プラチナ社会をいかに実現していくかについての方法論が創り出されていること、そして、それを実行している方々が集まっていractionすること、そのことを本当に心強く思います。

今後の皆さんの更なる研鑽、努力に期待して、私の話を終えさせていただきます。ありがとうございました。

## 閉会挨拶

プラチナ構想ネットワーク  
幹事長

渡 文明



栄えある総務大臣賞、経済産業大臣賞を受賞されました珠洲市、積水ハウスの皆様、大変おめでとうございます。

また、優秀賞、審査委員特別賞を受賞されました自治体、あるいは企業の取り組みも大変素晴らしいものでした。

皆様の日頃のご努力に対しまして、心から敬意を表したいと思います。

現在、政府では地方創生に関する様々な施策を打ち出しておりますが、私は、いまだ制度や仕組みの見直しを中心とした、地方創生の準備段階に過ぎないと思っております。冒頭で前原

先生にご紹介いただいた松下幸之助さんのお言葉、「成功するまで、実現するまで続けること」、これが大事であり、そのためには地方創生の担い手である地方自治体、企業の皆様方のこれからの手腕が問われるのだらうと思います。

本日、各賞に輝きました10の取り組みは、子どもたちの教育をはじめとした人材育成、自然環境との共生、高齢社会を迎えての認知症対策など、各自治体・企業が抱えている共通の課題、そしてその解決のためのヒントを多く含んでおりました。これらの取り組みが着実な成果を挙げられることを願います。

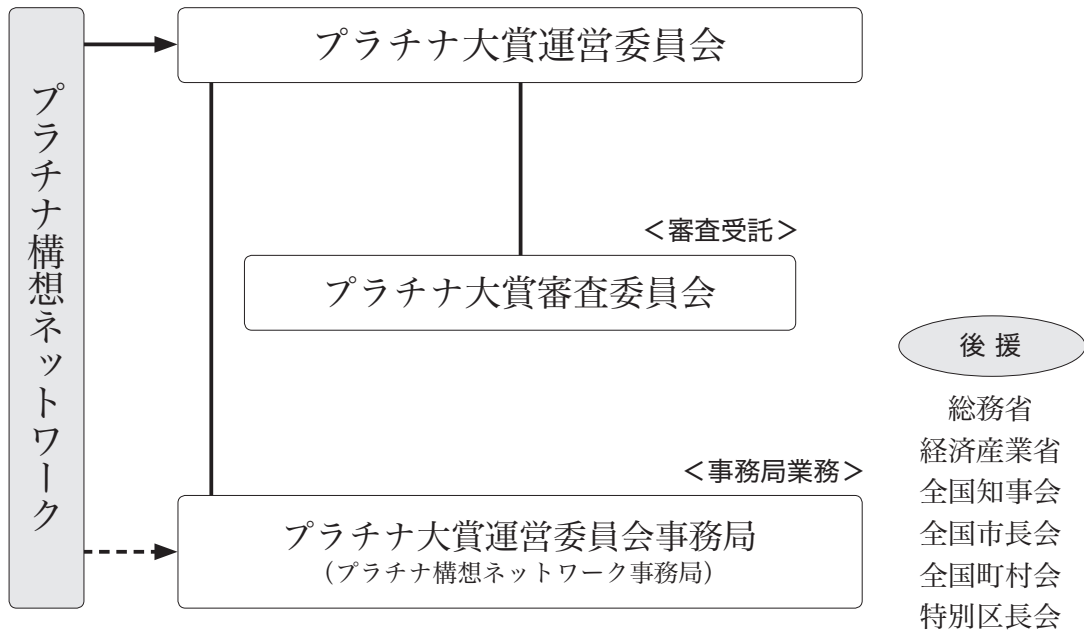
また、来年以降も各自治体・企業から、今回のような素晴らしい取り組みを数多くご応募いただき、審査委員の皆様を大いに悩ませていただきたいと思っております。

最後になりますが、今後のプラチナ構想ネットワークの活動に対する深いご理解とご支援をお願いするとともに、皆様方のご健勝とご発展を祈念いたしまして、閉会の辞といたします。



資料編

## 運営委員会組織と事務局運営体制



## 第3回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 参加者数

	参加者数
会員・発表団体関係者・その他一般	270
審査委員等主催者側関係者	8
メディア関係者	14
来賓・総務省関係者	15
事務局関係者	13
イベントスタッフ	22
合計	342



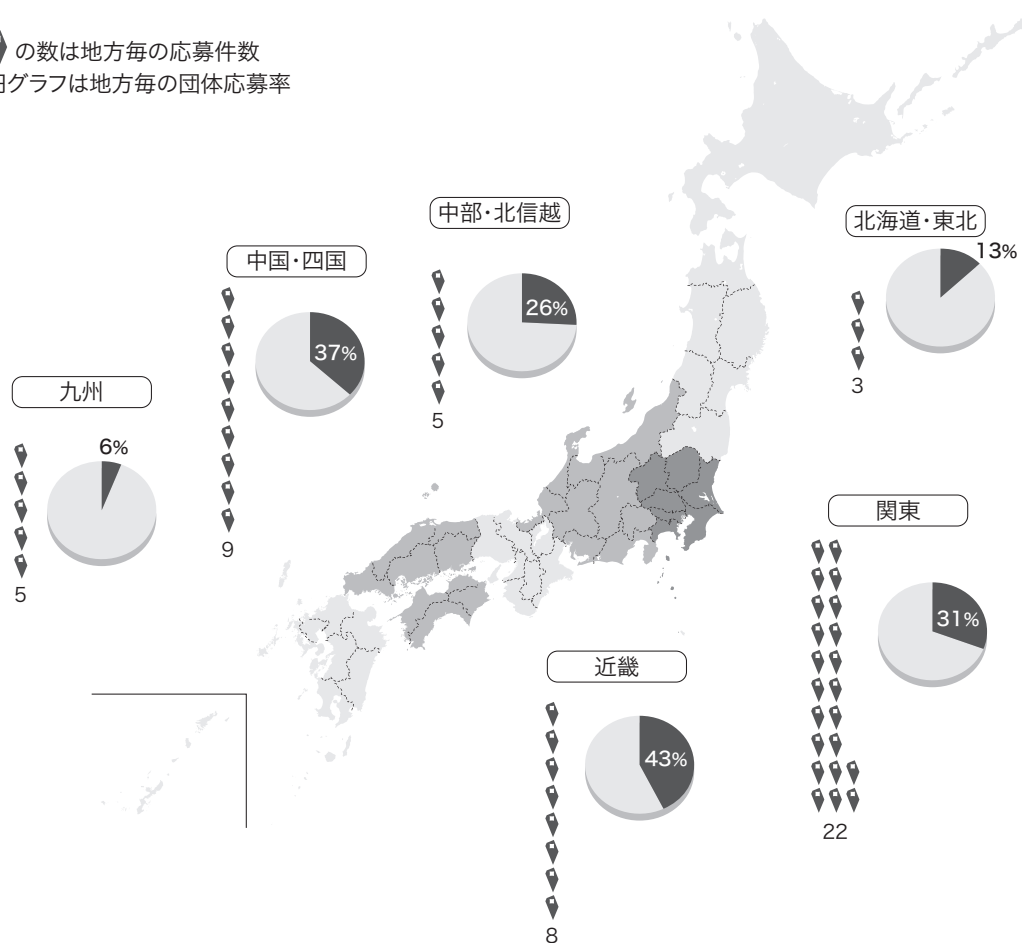


## 応募団体の全体概要

### 【団体属性別】

		道府県		市町村		法人		合計	
応募団体数	会員団体数	12	28	22	104	3	133	37	265
団体応募率		43%		21%		2%		14%	
応募件数		16		36		5		57	

📍の数は地方毎の応募件数  
円グラフは地方毎の団体応募率



### 【地方別】

		北海道・東北		関東		中部・北信越		近畿	
応募団体数	会員団体数	3	24	12	39	5	19	6	14
団体応募率		13%		31%		26%		43%	
応募件数		3		22		5		8	

		中国・四国		九州		法人・特別		合計	
応募団体数	会員団体数	7	19	1	17	3	133	37	132
団体応募率		37%		6%		2%		28%*	
応募件数		9		5		5		57	

\*自治体のみで集計

## 主なメディアの掲載一覧

### テレビ

NHK ニュース、フジテレビ「LIVE2015 あしたのニュース&すぼると！」にて、取り上げていただきました。

### 新聞

北國新聞 (2015年10月24日朝刊)

**珠洲市、金大が最高賞**  
プラチナ大賞 地域課題に取り組み

人口減少と高齢化社会の「最終選考」に進んだ。中で地域課題の解決を図る「第3回プラチナ大賞」の最終審査発表会と表彰式は23日、東京・千代田区のイノホールで開催され、珠洲市と金大が発表した「能登半島最先端の過疎地域イノベーション」が、最高賞の大賞(総務大臣賞)を受賞した。

県内自治体の受賞は初めてとなる。全国57の自治体・企業が応募し、10団体が

最終選考に進んだ。発表会で泉谷満寿裕市長と中村浩一特任教授は、珠洲市の空き校舎を整備した金大能登学習舎を拠点とする活動を説明した。学術研究や能登里山里海マイスター養成プログラム、世界農業遺産に認定されたフイリン・イファオとの交流などを挙げ、イターン者13人の移住につながったと述べた。

表彰式では、高市早苗総務相から泉谷市長らに賞状が手渡された。泉谷市長は

「人口減少の厳しい状況の中で、大学との連携を深めて人材育成をしっかりと続けていきたい」と述べた。

日本経済新聞 (2015年10月24日朝刊)

**積水ハウスなど「プラチナ大賞」**

地域で植栽や生物調査、高齢化や地球温暖化などへの優れた取り組みを表彰する「第3回プラチナ大賞」(プラチナ構想ネットワーク主催)の最終審査発表会が23日、東京都内で開かれた。最優秀賞には珠洲市の「能登半島最先端の過疎地域イノベーション」と、積水ハウスの「5本の樹で命あふれる笑顔のまちを」が選ばれた。

珠洲市は2006年に金沢大学と連携し、空き校舎を活用して講座を開き、能登半島の環境や伝統文化、人口減少を調査・研究する人材を育成している。積水ハウスは造園業者などの協力を得て、地域の特徴に合った植栽や生物調査などを実施している。

高知新聞 (2015年10月24日朝刊)

**高知市助成制度に「プラチナ特別賞」**

【東京支社】地域課題の解決を目的とした取り組みを表彰する「プラチナ大賞」の最終審査発表会が23日、都内で開かれ、高知市の助成制度「こうちこどもファンド」が審査員特別賞を受賞した。プラチナ大賞は、全国の首長や経営者らでつくる「プラチナ構想ネットワーク」などが主催。今年57団体から応募があり、1次審査を通過した10団体がこの日、取り組みを競った。

こうちこどもファンドは高知市が2012年に創設した制度。子どもが発案するまちづくり活動に対し、1件20万円を上限に助成している。これまでに、野菜作りに取り組み子どもたちの団体や、中学生による避難所誘導看板の設置など、33団体が助成した。

発表会では吉岡章副市長が助成事例を紹介しながら、「子どもたちに明るい未来を描いてもらいたい」などと述べた。

審査の発表後、吉岡副市長は「子ども主体の活動が評価された。受賞を機にさらに取り組みを充実させたい」と話していた。(大山泰志)

神奈川新聞 (2015年10月24日)

### 川崎と横浜市の保育連携

## プラチナ大賞 特別賞に

地域の課題解決や活性化に資する先進的な取り組みをたたえる「第3回プラチナ大賞」の最終審査と表彰式が23日、都内で行われ、川崎市と横浜市が昨年10月に締結した待機児童対策に関する連携協定が審査委員特別賞に選出された。

同大賞はプラチナ大賞運営委員会(増田寛也委員長)とプラチナ構想ネットワーク(小宮山宏会長)が主催。全国の57件の応募の中から最終審査に進んだ10件でア

川崎から横浜に持ちかけて昨年10月に結んだ連携協定の背景のほか、市境での保育所の共同整備や既存施設の相互利用などの取り組みを説明した。

福田市長は、協定の効果について「行政の境界を撤廃し、保護者の預け先の選択が広がる。市民サービスが向上した。既存施設の共同利用で行政運営の効率化も図られた。まさに地方自治法の根幹である最少の経費で最大の効果が得られた」と説明。その上で「今後



川崎と横浜市の連携の効果をアピールした川崎市のプレゼンテーション

熊本日日新聞 (2015年10月24日朝刊)



くまもと県知事に県の認知症対策の取り組みを発表する浦島郁夫知事。23日、東京都千代田区

## 認知症対策 県が優秀賞

「プラチナ大賞」社会や地域の課題を独自のアイデアで解決している自治体や企業などを表彰する第3回「プラチナ大賞」の最終審査発表会が23日、東京都内であり、認知症ケアの先進的な取り組みを発表した熊本県は優秀賞に選ばれた。自治体や企業など約270団体でつくる「プラチナ構想ネットワーク」が主催。今回は57件の応募があった。同日は1次審査を通過した10団体が発表。吉川弘之・東京大名誉教授ら有識者8人が、取り組みの革新性や実効性、持続可能性などを評価した。

熊本県の発表では浦島郁夫知事が、大学病院と拠点精神科病院、かかりつけ医が連携して認知症の早期発見・対応に取り組んでいる

ことを紹介。「認知症になっても安心して暮らせる地域を」と訴えた。

大賞の総務大臣賞には石川県珠洲市、経済産業大臣賞には積水ハウスが選ばれた。(山口尚久)

毎日新聞 (2015年10月29日朝刊)

## 豊岡市が優秀賞

### 「小さな世界都市」を評価

創意工夫に優れた先進的な取り組みをたたえ、豊かで快適な社会「プラチナ社会」のモデルを不す「第3回プラチナ大賞」優秀賞を豊岡市が、受賞した。市が進める世界都市の実現へ向けた「小さな世界」の位置付けを見据えた取り組み「豊岡の挑戦」が受賞対象になった。

「小さな世界都市」は、人口約10万人、面積約1,000平方キロメートル、環境経済戦略に伴う事業などを説明し

大賞には石川県珠洲市(総務大臣賞)、積水ハウス(経済産業大臣賞)、優秀賞は他に北海道七ヶ町、熊本県が選ばれた。

豊岡市秘書広報課は「応募10件の中で市の取り組みに評価をいただき、うれしく思う。今後とも知恵を出して地域課題に取り組みたい」としている。(浜本年弘)

---

## 第3回プラチナ大賞 報告書

---

2016年2月18日 発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局  
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

---





編集・発行 プラチナ大賞運営委員会事務局(プラチナ構想ネットワーク事務局)  
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 TEL. 03-6705-6216 FAX. 03-5204-9563

